

## 2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は一号館二号館とも玄関に掲げてあり、わかりやすい理念の内容になっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、ホームの基本理念を理解し、その理念どおりに実践するための努力をしている。また地域との共生や認知症に係る理解を地域に深めるための努力もしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	中高生をはじめ、地域のボランティアが訪問し、地域の行事にも積極的に参加しながら交流を深めている。また、地域の老人会との話し合いで、地域の行事等に参加できるように働きかけている。		町社協の生き生きふれあいサロンに参加する計画があるので、積極的に地域に出向いてほしい。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ホーム長や管理者はもちろんであるが、他の職員も昨年の改善事項を把握して、積極的に改善に向け努力している。また自己評価についても、職員全員で話し合いながら自己評価に取り組んでいる。		

宮崎県野尻町 グループホームむつみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回の会議を開催しており、家族や利用者の代表も会議のメンバーとして参加している。会議では生活支援の状況報告や、今後のホームのあり方について、積極的な意見交換がなされており、職員はその意見をしんしに受け止め、サービスの向上に前向きに取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域密着型のサービスやグループホームのあり方、または運営等についての、町の担当者とのやり取りは、法人本部の事務方が主として行っており、ホームの管理者等が直接関わることはほとんどない。	○	重要な件については法人本部でよいが、通常のホームの事務的な連携や連絡調整については、管理者が直接足を運んだり電話での調整を積極的に行ってほしい。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会の際に近況を報告したり、利用者の状態については電話で報告するなど常に暮らしぶりについての報告を行っている。また金銭出納内容も定期的に報告している。		法人のホームページを立ち上げて、利用者の状況を遠方の家族にも報告できるように準備中であり、パソコンのない家庭にはその内容についてコピーを送るように計画している。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置して、家族等の苦情や意見を反映できるように努めている。また、運営推進会議に家族も参加し、その意見を運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	年度途中での退職者も時折あり、その都度利用者には説明をしている。また職員の異動が最小限になるように職場環境の整備に努めている。		異動により職員が変わっても利用者に不安が生じないような配慮に努めてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務の手順や接遇、ケアの方法については先輩職員が後輩職員に指導したり申し送りを行ったり、上司が率先して指導や助言をしている。また法人内部の研修会や外部研修等にも積極的な参加が見られる。		外部研修等の資料については、職員の誰もが身近に見て取れるようにしてほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県西地区のグループホーム協議会の勉強会に参加したり、同業者との横の連携を取りながらスキルアップに努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居体験や説明に十分に時間を割いて、利用者には不安がないように努めている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との対話や接遇の中で、利用者からの教えを大事にしながら生活支援に役立っている。また寄り添いケアを実践している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランにも本人や家族の主訴が反映されており、モニタリングでもその成果や支援の満足度が確認できるようにチェックシートを作成している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	モニタリングのためのチェックシートに職員の意見が集約され、評価につながっている。またプラン作成においてはアセスメントツールを使用して課題分析を行い、その中で職員の意見を反映している。		アセスメント表やケアプラン表、モニタリングのチェックシート、カンファレンスの記録が別々に保管されているので一冊のファイルで管理されていれば見やすいのではないだろうか。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月ごとに見直しがなされている。また家族や利用者への説明もなされ、確認のサインも徴している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の特養の機能を十分に生かし、また連携もとっている。ホームの機能についても柔軟な考えの中で利用者や家族に対応するように努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	掛かりつけ医はそれぞれであるが、常に連絡・報告・相談の機能ができている。また定期的な受診や検診もできている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事前に家族や利用者に対するアンケートにより、終末までこのホームでケアしていくとの確認ができている。また事前にカンファレンスでの協議や主治医との話し合いもなされている。		利用者の状態や状況によって、その都度家族や主治医と綿密な報告や相談をさらに充実してほしい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日常的な接遇の中でも、排泄援助等についてはさりげない言葉かけができている。個人情報の取り扱いについても、契約書や同意書で家族や利用者本人に説明し同意を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	身体拘束や抑制などは一切なく、利用者それぞれが、自然な流れの中でゆったりと生活している様子がうかがえた。		

宮崎県野尻町 グループホームむつみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	要介助の方もいるが、言葉かけをしながら介助し、他の職員も利用者と同じ食事を食べ、会話に花を咲かせながらの支援ができていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に沿えるような回数や時間設定はなかなかできていないが、利用者週4回の入浴は確保できている。		浴槽が深いので、介助の際には十分な見守り等の配慮をしてほしい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	介護計画にも個別に楽しみごとについてはうたっており、洗濯物や後片づけについても利用者が自ら取り組めるように支援ができています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別の外出ができており、墓参りや自宅訪問がなされている。また食材の買い物や季節に応じた外出支援ができています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関は自由に出はいることができるように施錠はしていない。また気になるセンサーも付けていない。		

宮崎県野尻町 グループホームむつみ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の特養との合同訓練や、ホーム単独の災害訓練を地域住民と行っているが、職員一人ひとりが、訓練時や緊急時に適切な判断や動作ができているとはいえない。	○	ホーム独自の災害訓練マニュアルを作成し、常に意識的な判断や訓練ができるようにすることが望ましいのではないかと。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設特養の栄養士の献立を基本にして、利用者一人ひとりの状態に合わせた調理がなされている。また献立以外にも利用者の声を聞き、その日の献立を独自で考えながら調理することもある。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光や季節感を取り入れたインテリアは、利用者の生活をゆったりとそして楽しくさせる工夫が見られる。また共有空間もくつろげるように配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は利用者の使い慣れた家具などが持ち込まれ、個性のある居室になっている。また時を知らせる時計やカレンダーもある。		

※  は、重点項目。